



第14回 ジョン万次郎フェスティバル



平成25年10月5日、姉妹都市アメリカ・フェアヘーブンにおいて「第14回ジョン万次郎フェスティバル」が開催されました。当協会の企画したジョン万祭りツアー（10月3日～10月9日）へは、泥谷市長はじめ清水高
校生派遣事業の7名を含む23名の皆さまに参加いただきました。ツアー以外の個人参加を含めると約30名の参加となり、前回以上に賑やかな交流が行われました。

祭り当日の開会式典では、

泥谷市長より「ジョン万次郎がホイットフィールド船長をはじめ多くの方々の愛情を全身で受け、立派な青年として日本に帰ることができたのは、皆様方の祖先の慈愛をいただいたもので、万次郎が日本の開国と日米交流に大きな役割を果たすことができたのだ、と祭りに参加して実感している」などと挨拶がありました。

イベント会場では土佐清水市のブースが用意され、友好協会会員はじめ高校生たちによる折り紙や書道などの日本文化の紹介を行いました。特

に現地の方の名前を漢字に当てはめて筆で書くサービスは、順番待ちの列が途切れることがない盛況ぶりでした。イベントの最後には泥谷市長を先頭に『あしずり踊り』が披露され、現地の方々も踊りの輪に加わり、楽しく和やかなうちに祭りは幕を閉じました。

フェアヘーブン滞在中は、

ホイットフィールド・万次郎友好協会、ルーニー会長ご夫妻はじめフェアヘーブンの皆さまのあたたかい歓迎を受け交流が行われました。

祭りの翌日には万次郎がアメリカ生活中に残した足跡を辿る「万次郎トレール」に沿って、日米の友好交流発祥の地の見学も行いました。

今回のツアーへは、これからの日米交流の将来を担う高校生の積極的な参加があり、大変うれしく感じました。万次郎の縁により日米両都市の人々の間に築かれた友情―。これまでの歴史を大切にしながら、これからも友情、友好の絆がより深く広がっていくことを期待しています。



清水高校生姉妹都市派遣事業の報告！

土佐清水市姉妹都市友好協会と清水高校では、学生の国際意識の向上と姉妹都市・姉妹校との友好を深めるため、毎年、学生を米国姉妹都市へ派遣する事業を行っています。今回は「第14回ジョン万次郎フェスティバル」へ参加する形で派遣を行いました。参加した7名からの報告をご紹介します。



清水高校2年生
吉田 知実

私が今回の姉妹都市訪問で一番印象深いのはジョン万次郎に参加したことです。清水高校からも書道と折り紙のパフォーマンスをしました。たくさんの人が私たちのブースに来てくれて嬉しかったです。祭りの中でアメリカ在住の日本の方にお話を伺うことができ、良い英語の勉強方法を教えてもらったり、アメリカについて詳しく教えてくださったりと楽しい時間を過ごしました。祭りの最後に余った折り紙を配って歩きました。私一人だったので言葉が通じるか不安でしたが、私の言ったことを理解しようとしてくれたお陰でコミュニケーションをとることができました。このようなことも含め、たくさんの人との関わりの中でコミュニケーションの大切さが分かった一週間で、とても良い経験ができた姉妹都市訪



清水高校1年生
犬伏 恵理

問でした。

私が今回の姉妹都市訪問に参加した理由は、外国の文化にふれてみたかったからです。そして訪問してみても得られた成果は、私の知識の幅が今までより広がったことです。特に、清水の偉人である中濱万次郎のこと、フェアヘイブンのホイットフィールド船長のことを今回の訪問で更に知ることができて良かったです。これからも知らない人たちにいっぱい知ってもらえたらと思います。そして自分もまたフェアヘイブンに行ってみてみたいと思います。



清水高校1年生
濱田 裕司

私の将来の夢は、アメリカで宇宙工学の勉強をすることです。



清水高校1年生
笹岡 星来

アメリカという国はどのような雰囲気を持った国なのか実際に自分の肌で感じたかったです。今回の姉妹都市訪問に参加しました。ジョン万次郎で私たちは書道のパフォーマンスを行いながら、アメリカ人と交流を図りました。現地でのジョン万次郎に参加することでアメリカ人が日本の文化に興味を持ち、積極的に取り入れる姿勢が印象的でした。今回の訪問で体験したことを活かし何事にもチャレンジ精神を持って挑戦していきたいと思っています。

ジョン万次郎祭りで催し物の書道と折り紙が予想よりはるかに人気だったので、嬉しくもありとても驚きました。私の今回の短期留学での課題は「フェアヘイブンやボストンの人と自分から気軽に話せるようにする」というものでし



清水高校1年生
山崎 侑菜

た。自分から声をかけて話すことはできませんでしたが、相手から声をかけてくれたので話をするのができたので良かったです。この短期留学を通して将来のことを幅広い視野で考えられるようになったと思います。

この姉妹都市訪問ではさまざまな体験をすることができました。ボストン美術館では皆とはぐれ、英語しか通じないことから、もう集合場所には戻れないのではないかと心配しました。また、自分のことは自分で管理しなければならぬことや、物事を自分のペースで取り組むと周りに置いて行かれることも分かりました。そして、この姉妹都市訪問を通して一緒に行った人たちや現地で出会った人たちとも良い思い出です。

今回、姉妹都市訪問をさせていただいて良い勉強になりました。



清水高校1年生
氏家 希望

自分の英語を伝えられず、もどかしい思いをしましたが、徐々に慣れることができ、言葉が通じるととても嬉しかったのを覚えています。そして、もう一つ、清水との絆の深さを感じました。たくさんの方々が日本文化に興味を持ってくれて、私たちの書道などのパフォーマンスを通して楽しい時間を共有できました。今までこのお祭りが続いているのに驚き、万次郎の偉大さを感じました。



清水高校1年生
尾崎 智彩

ジョン万祭りに参加したこととはコミュニケーションの難しさです。

特にアメリカの学生と話をすることで自分の勉強不足を実感し、将来のことをあまり考えていなかったと思いました。ジョン万祭りではたくさんの人と出会い、話をするので以前よりも英語を聞きとれるようになりました。これからもっと勉強をして完璧な英語を話せるようになりたいと思います。また、万次郎のことなどをフェアヘイブンで再学習をしたことで、さらに深く知りたいと思うようになりました。



開催式典 左から ルーニー会長ご夫妻、ニューハットフォード市長、泥谷市長、フェアヘンセルクマン議長、マサチューセッツ州下院議員、ホスト総領事



イベント会場にて



イベント会場 土佐清水市のブース



あしずり踊り



ホイットフィールド・万次郎友好記念館



フレンドシップディナー



イベント会場にて

平成5年2月、豊見城市と土佐清水市はジョン万の縁により姉妹都市となり、これまで様々な交流をとおして友情の絆を深めてきました。

昨年の夏もスポーツ交流として8月2日から5日にかけて、豊見城市スポーツ少年団（総勢20名）の皆さんが本市を訪れました。3日は下ノ加江川でバーベキューやき水をほおぼり、川遊びやスイカの早食い競争など行い交流を深めた後、あしずりまつりの会場へ。あしずりまつりでは、夜空いっぱい次々と打ち上げられ、大輪の花でまつりのファイナレを飾った9100発もの花火に子ども達から大きな歓声があがりました。



スポーツ交流

～ 第26回 郵YOU杯 少年野球大会 ～

豊見城市スポーツ少年団の皆さんが来清しました



4日には「第26回 郵YOU杯少年野球大会」が下ノ加江グラウンドを会場として開催され、豊見城市チーム、土佐清水市の4チーム、三原村から1チームの計6チーム、総勢95名が参加。蝉時雨のなか三崎ファイターズ・兼松岳杜主将の選手宣誓により試合が開始されました。監督から選手に向けての指示が飛び交うなか、各チームの選手たちは「元気だしていこう！」など、声をかけあいながら最後まで元気よくプレーしました。決勝戦は「豊見城市チーム」が「下ノ加江ファイターズ」をおさえ連続5回目の優勝に輝きました。

閉会式では、西山副部長より「皆さんの全力のプレー

に感動やパワーをもらった。この大会で出会ったお友達と、これからも葉書や手紙をとおして交流を深めてください」との言葉がおくられました。下ノ加江川で泳ぎ、真っ黒に日焼けした肌。炎天下のなか一生懸命プレーし流れた汗。4日間という短い時間でしたが、子供たちは野球や川遊びを楽しみながら、お互いのことを理解し、交流の輪を広げることができたようです。



試合結果

- 1位 豊見城市チーム
- 2位 下ノ加江ファイターズ
- 3位 三原ウイングス

永國顧問が逝去されました

ジョン万研究者で当協会の顧問として協会活動にご指導をいただいております日米学院・学院長の永國淳哉氏が平成25年9月21日急逝されました。これまでのご活動に対し深く感謝申し上げますとともに、ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈りいたします。

会員募集のお願い

土佐清水市姉妹都市友好協会では会員を募集しています。当協会の活動は会員の皆さまに支えられ運営しております。姉妹都市との交流や国際交流に興味のある方は、どなたでも入会できますので、ご紹介をお願いいたします。

○年会費について

普通会员 1,000円以上 特別会員 10,000円以上

○お申し込み・お問い合わせ

土佐清水市姉妹都市友好協会事務局

☎ 0880-82-1113 FAX 0880-82-2882